

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201768		
法人名	社会福祉法人 札幌蒼生会		
事業所名	グループホーム 栄町		
所在地	札幌市東区北46条東16丁目1番18号 (電話) 011-782-1000		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月24日	評価確定日	平成22年1月11日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム栄町」は地下鉄ターミナル近くの交通至便な場所に位置し、居宅介護支援事業所、通所介護及び認知症対応型通所介護の事業所と併設されて、相互に連携し便宜を供与し合っている。4階建ての社員寮を改造したもので、ゆったりとしたスペースと便利な空間構造を備えている。社会福祉法人の名にふさわしい良心的な運営を自負しており、薬に頼らないケアもこの施設の大きな誇りであり、努力目標にもなっている。家族との連携にも力を入れ、A3版の大きな広報誌、写真入りの個人別の手紙のほかに心身の健康状態や生活状況、看護師の一言などを記載した詳細な記録を毎月、そして運営推進会議の議事録を隔月で送っている。さらにクリスマスには年間の写真をアルバムにして送っている。職員の教育にも熱心で各人の希望申告に基づく年間計画を作成して実行し、内部研修をほぼ毎月実施している。職員相互間及び管理者・運営者との信頼関係は良好である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の改善課題は「改善計画シート」に記載し、職員全員が話し合っており着実に取り組まれている。理念の改善、評価の活用、運営推進会議の活用、重度化・終末期に向けた方針などほとんど全て改善が実行された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体が意義を理解し合った上で各人が表の書き込みを行い、集計したものを全体会議で討議してまとめ上げている。改善課題はシートにまとめて目標、対策を明らかにし、確実に実行に移している。また、自己評価では日ごろ気付きにくい課題に気付き、外部評価からは客観的な視点の評価を得ることで職員の意識改革に役立てられている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議はほぼ隔月で定例開催され、施設の運営状況、行事、職員や利用者の異動、災害対策と地域の協力体制、自己及び外部評価の結果などについて報告、討議されている。会議では家族の意見や要望、地域包括支援センターからの行事や感染症対策についての助言などが出され、活発な討議が行われ、結果は全職員にも周知されて運営の改善に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が来訪した時にじっくり話し合い、気軽に意見を出せるように努めている。運営推進会議では家族から活発な意見や要望が出され、これらの結果は運営に反映されている。今年9月には初めての試みとして家族会が開催され、活発な意見が出された。今後も家族会を毎年開催し、その中で家族のみによる意見交換の機会を設けることも検討されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設の広報誌は町内会の回覧に加えられて、地域住民に施設の様子が伝えられている。町内会の花壇整備、公園清掃などに参加しているが、利用者の介護レベルが重度化するに伴い、盆踊りやラジオ体操などの行事には参加が難しくなっている。小学校に招かれて地域の老年寄りと共に「子どもとシニアのつどい」に参加している。中学校では総合学習の一環で歌や出し物、昔遊びなどの企画に参加している。地域ボランティアの来訪も盛んである。

【情報提供票より】(21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 23日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 17 人
職員数	15 人 常勤 14人、非常勤 1人、常勤換算 13.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4階建ての 2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3階 40,000円、2階 42,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:15,000円 暖房費:13,000円(10~3月)	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月24日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ラベンダー在宅診療クリニック、ラビット歯科
---------	-----------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来からある法人理念は「生活と生命を支える」を基本に「人格・尊厳・自由の尊重、専門技能の追及、地域共生」の3項目で構成されているが、これに対して職員が共同でより具体的な解釈を加えて事業所独自の理念を作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が自ら参加して作り上げた経緯からよく周知されており、玄関及び各ユニットの事務所に掲示されている。ケアプラン作成に際してのカンファレンスなどでは話し合いの中で理念の確認が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の広報誌は町内会で回覧される。町内会の花壇整備、公園清掃などに参加しているが、盆踊りやラジオ体操は体力的に参加が難しくなってきた。小学校に招かれて地域のお年寄りと共に「子どもとシニアのつどい」に参加し、中学校の総合学習の一環で歌や出し物、昔遊びなどの企画に参加している。地域ボランティアの来訪も盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体が意義を理解し合った上で各人が表の書き込みを行い、集計したものを全体会議で討議してまとめ上げている。改善課題はシートにまとめて目標、対策を明らかにし、確実に実行に移している。また、自己評価では日ごろ気付きにくい課題に気付き、外部評価からは客観的な視点の評価を得ることで職員の意識改革に役立てられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議はほぼ隔月で定例開催され、施設の運営状況、行事、職員の異動や利用者の出入り、災害対策、自己及び外部評価の結果などについて報告、討議されている。会議では家族の意見や要望、地域包括支援センターからの行事や感染症対策についての助言などが出され、活発な討議が行われ、結果は全職員にも周知されて運営の改善に活かされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターとは運営推進会議のほか、地域交流の仲介などで連携している。市の担当者とは法令についての最新の情報を得たり、法令の説明や解釈などで相談し、区の担当者とも連絡を取り合い、親密な関係を築いている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>A3版の大きな広報誌、写真入りの個人別の手紙のほかに心身の健康状態や生活状況、看護師の一言などを記載した詳細な記録を毎月、そして運営推進会議の議事録を隔月で送っている。さらにクリスマスには年間の写真をアルバムにして送っている。金銭管理、職員の異動も確実に通知されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来訪した時にじっくり話し合い、気軽に意見を出せるように努めている。運営推進会議では家族から活発な意見や要望が出され、これらの結果は運営に反映されている。今年9月には初めての試みとして家族会が開催され、活発な意見が出された。今後も家族会を毎年開催し、その中で家族のみによる意見交換の機会を設けることも検討されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員育成や施設ごとのケアの均質化のために必要な法人内の異動は行われている。先頃の待遇改善や人員増により勤務条件が改善され、離職は減った。止むを得ない離職があった時は直ちにパートで埋めるなどしてケアの質を落さない配慮をしている。一人の利用者に複数の職員が親密な関係を築いて、異動や離職があっても残った職員がカバーできる態勢にしてある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の教育には熱心で、希望申告に基づく年間計画を各人について作成し、施設全体の内部研修、外部研修の計画を立てて実行している。内部研修は、外部研修の受講者報告や関連施設との持ち回り研修などで、ほぼ毎月実施している。外部研修は本人の希望やレベルに応じて派遣し、年間延べ25人程度受講している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>主任管理者が昨年、東区管理者会議の代表と、札幌市管理者会議の役職を務めた実績から、多くの同業者と親しい関係を保っている。東区管理者会議が推進して同業者相互の見学会が行われており、個々の同業者ごとに独自の相互訪問見学も行われている。これらの交流には一般職員も参加している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用申請を受けた時点で家族と本人の見学を勧めている。利用開始が近づいた頃に訪問して家族や本人と詳しい情報交換を行い、趣味や生活習慣、大切にしていることなどを把握して迎え入れに備える。併設のデイサービスからの入居も少なからずあるが、この場合の馴染みは容易である。家具や備品などはできるだけ使い慣れたものを持ち込んでもらうことによって馴染みの雰囲気を作る。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>掃除や炊事などの家事全般、メモ用紙作りやカレンダー作り、季節の壁掛け作りなど、利用者一人ひとりの好みや能力に応じた作業を共同で、あるいは分担して行うことによって共に支え合う関係を作っている。利用者が労いの言葉をかけ、肩を揉むなどして職員の心を支えている。昔の生活や教訓などから職員が学ぶことも多い。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分自身での意思決定を重要なものと位置付け、その日着る洋服の選択、食事時間、入浴時間と回数など、いずれも本人の意思を確かめながら介護している。意思表示の困難な人にはわかりやすい問いかけの工夫や時には筆談を用い、眼差し、表情を注意深く観察して意向を読み取る努力も欠かさない。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族、関係者から暮らしや医療情報などを収集し、本人の意向を入れて、居室担当者がセンター方式でアセスメントを実施し、それを基に案を作りカンファレンスに諮って確認している。入居後初回の場合は1~2週間の間に再度カンファレンスを開き、計画作成者は協議内容をまとめ計画書を完成させている。介護計画は家族の確認を得て実行に移している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は状態に変化がない場合は3ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月ごとに更新として見直し作り直している。カンファレンスでは、個人ノートや記録も参考に、本人の状態や目標達成度と今後の対応について話し合い、現状に沿った見直しをしている。入退院時、体調の変化、精神的な変化など、状態に変化があった場合は即カンファレンスを開き、家族とも話し合い、新たな計画を作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の状況に応じて通院介助や退院時の移送支援を行っている。法人のデイサービス休日に、1階のデイルームを使用し映画やカラオケを楽しみ、車椅子移送に便利なデイサービスの車両を借りて遠出の外出をするなど、法人内の機能を活用しサービスを提供している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医の往診、週1回の看護師の訪問があり、内科については全員協力病院をかかりつけ医としている。往診前に本人の状態をFAXで送り常に相談できる体制を作っている。専門的な病院の受診には必要な情報を提供し、できるだけ事業所も同席し主治医の説明を聞き、今後の方針を家族とも共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に看取りに関する意思確認を文書で説明し、すでに入居している利用者には介護計画の更新時に家族に事業所の方針を確認している。終末期に入り看取りを希望する場合は、看取り介護の内容を文書で交わし、頻繁に方針を話し合い意思を確認している。職員は看取り介護のマニュアルや勉強会などで対応を学んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄のことを他者の前で話さない、目上の人に対する言葉遣いなど、利用者の自尊心を傷つけないように配慮している。個人情報などの書類は一覧表にして保管場所を決めているが、各ユニットの入口に来訪者の受付簿が一覧で記入されており、プライバシーへの配慮が懸念される。		プライバシーに配慮した面会簿取り扱いの工夫など、検討を期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに沿い、入浴時間帯以外は特に決めていない。起床、就寝、食事時間、昼寝などその人の傾向を知り、できるだけ合わせて対応している。合同での体操やゲームを楽しみ、塗り絵、裁縫、計算、また買い物に同行するなど個別対応を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士が事業所と話し合い、利用者の好みを入れて献立を立てている。月に1~2回は出前をとり、寿司、オードブル、天丼、釜飯など、時にはセレクトメニューから選んでもらっている。利用者は漬物作り、食材切りなどの調理に参加し、食後は下膳、食器片付けなどを職員と一緒にやっている。時間をかけて丁寧に食事の介助がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができるように態勢を整えている。基本的には週2回の入浴を目標にしており、可能な限り体調を見て希望に沿っての対応を努力している。入浴を嫌がる利用者には入りたい気持ちになってもらうように言葉かけなどを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事や掃除などの家事のほか、紙を切ってメモ用紙を作り、ゴミ袋を小さく畳み、カレンダーを作り、観葉植物に水をやることなどを通し、職員はそれぞれのできる能力を引き出している。スクリーンで映画や懐かしい歌などを楽しみ、ボランティア訪問による楽器演奏を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい時期には中庭を散歩したり事業所の庭先で花を見たりすることが多くなっている。買い物や外出に出かけ、誕生日には本人の希望で行先を決めている。小樽や大通りなどの遠出の機会もあるが、多くても週2~3回の外出になっている。		近所の庭の花を見て回るなど、散歩で近隣の方と会話を交わすといった身近な所での外出頻度を増やすことを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は防犯上鍵をかけているが、中からは自由に開けることができる。エレベーターには電子チャイムが設置されており、職員は利用者の出入りを把握している。外に出た時は利用者の自由な行動を尊重し、行動を共にして安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中と夜間を想定して年に2回、階下のデイサービスと合同で避難訓練を実施している。運営推進会議では近隣の協力を議題に載せ、また町内の会館を避難場所として話し合っている。緊急マニュアル、連絡網が作成されており、定期的な自主点検、年に2回の救急救命講習を受けるなど災害に備えているが、緊急時の協力体制に不十分な面も見られる。		今後予定している近隣施設との協力体制の構築を期待したい。また、次回の町内会の防災訓練には事業所も参加し、地域と共に災害に取り組む関係作りに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に、食事量、水分量を記入している。好みの飲み物を用意し十分な水分量を摂り、食事の形態を変えて、とろみ食、キザミ食などを提供している。食事が摂れない時は主治医と相談しエンシュアで対応している。献立は栄養士がカロリー計算でバランスのとれた食事を提供し、毎月体重測定をして健康管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はユニットごとに異なっており、介護度の高い利用者は車椅子移動が容易にできるよう、廊下幅、居間を広くとったユニットで過ごしている。主に元気な利用者が多いユニットの居間は少し狭いが家庭的な雰囲気がある。時計、手作りの暦、季節感のある飾り付けや観葉植物が置いてあり、壁には共同作品の貼り絵や写真が貼ってある。加湿器を用意し、湿度を一定に保っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	会社の寮を改造した居室には、元の洗面台とクローゼット、飾り棚が備えてあり、広い空間でゆったりしている。自宅からテレビ、ソファ、籐椅子、テーブル、昔懐かしい鏡台などを持ち込み、家族の写真や個人の趣味の作品などが飾ってあり、その人らしい居室になっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。